

第 12 条別表（専攻医の経験目標）

<p>達成段階</p> <p>1：基本的な知識を得た。</p> <p>2：基本的な病態や状況の把握ができ、指導を受けながら実施できた。</p> <p>3：一般的なケースで、自らが判断して実施できた。</p> <p>4：複数の一般的なケースで、自らが判断して実施できた。更に他の医師に指導できた（できる）。</p> <p>5：複雑な病態・状況下で、自らが中心となって判断して実施できた。</p>
<p>I. 一般的な症候及び疾患へのへの評価及び治療に必要な診察及び検査・治療手技</p> <p>※印の検査・治療手技については、それら全体の 90%以上の経験が必須である。しかしそれ以外についても、できる限り経験することが望ましい。この場合の「経験」とは、下記の達成状況で3以上を達成したことを意味する。</p>
<p>(ア) 身体診察</p> <p>※①小児の一般的な身体診察及び乳幼児の発達スクリーニング診察を実施できる。</p> <p>※②成人患者への身体診察（直腸、前立腺、男性・女性性器、鼠径、乳房、筋骨格系、神経系、皮膚を含む）を実施できる</p> <p>※③高齢患者への高齢者機能評価を目的とした身体診察（歩行機能、転倒・骨折リスク評価など）や認知機能検査（HDS-R、MMSE など）を実施できる。</p> <p>※④耳鏡・鼻鏡・眼底鏡による診察を実施できる。</p> <p>※⑤死亡診断を実施し、死亡診断書を作成できる。</p> <p>⑥死体検案を警察担当者とともに実施し、死体検案書を作成できる。</p>
<p>(イ) 実施すべき手技</p> <p>※①各種の採血法（静脈血・動脈血）、簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査</p> <p>※②採尿法（導尿法を含む）</p> <p>※③注射法（皮内・皮下・筋肉・静脈内・点滴・成人及び小児静脈確保法、中心静脈確保法）</p> <p>※④穿刺法（腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む）</p> <p>⑤子宮頸部スメア</p>
<p>(ウ) 検査の適応の判断と結果の解釈が必要な検査</p> <p>※①単純X線検査（胸部・腹部・KUB・骨格系を中心に）</p> <p>※②心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査</p> <p>※③超音波検査（腹部・表在・心臓、下肢静脈）</p> <p>※④生体標本（喀痰、尿、皮膚等）に対する顕微鏡的診断</p> <p>※⑤呼吸機能検査</p> <p>※⑥オージオメトリーによる聴力評価及び視力検査表による視力評価</p> <p>⑦消化管内視鏡（上部）</p> <p>⑧消化管内視鏡（下部）</p> <p>⑨造影検査（胃透視、注腸透視、DIP）</p> <p>※⑩頭・頸・胸部単純 CT、腹部単純・造影 CT</p> <p>⑪頭部 MRI/MRA</p>
<p>(エ) 救急処置</p> <p>※①新生児、幼児、小児の心肺蘇生法（PALS）</p> <p>※②成人心肺蘇生法（ICLS または ACLS）または内科救急・ICLS 講習会（JMECC）</p> <p>※③外傷救急（JATEC）</p>

<p>(オ) 薬物治療</p> <p>※①使用頻度の多い薬剤の副作用・相互作用・形状・薬価・保険適応を理解して処方することができる。</p> <p>※②適切な処方箋を記載し発行できる。</p> <p>※③処方、調剤方法の工夫ができる。</p> <p>※④調剤薬局との連携ができる。</p> <p>⑤麻薬管理ができる。</p> <p>⑥女性ホルモン製剤を適切に処方できる（ホルモン補充療法、低用量ピル（OC/LEP）、月経移動、緊急避妊）。</p>			
<p>(カ) 治療法</p> <p>※①簡単な切開・異物摘出・ドレナージ</p> <p>※②止血・縫合法及び閉鎖療法</p> <p>※③簡単な脱臼の整復</p> <p>※④局所麻酔（手指のブロック注射を含む）</p> <p>※⑤トリガーポイント注射</p> <p>※⑥関節注射（膝関節・肩関節等）</p> <p>※⑦静脈ルート確保および輸液管理（IVHを含む）</p> <p>※⑧経鼻胃管及びイレウス管の挿入と管理</p> <p>※⑨胃瘻カテーテルの交換と管理</p> <p>※⑩導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換</p> <p>※⑪褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン</p> <p>※⑫在宅酸素療法の導入と管理</p> <p>※⑬人工呼吸器の導入と管理</p> <p>⑭輸血法（血液型・交差適合試験の判定や在宅輸血のガイドラインを含む）</p> <p>⑮各種ブロック注射（仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等）</p> <p>⑯小手術（局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法）</p> <p>※⑰包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法</p> <p>⑱穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）</p> <p>※⑲鼻出血の一時的止血</p> <p>※⑳耳垢除去、外耳道異物除去</p> <p>㉑咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）</p> <p>㉒睫毛抜去</p>			
<p>II. 一般的な症候への適切な対応と問題解決</p> <p>以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応（他の専門医へのコンサルテーションを含む）を適切に実施できる。</p>			
ショック 急性中毒 意識障害 疲労・全身倦怠感 心肺停止 呼吸困難 身体機能の低下 不眠 食欲不振 体重減少・るいそう 体重増加・肥満 浮腫 リンパ節腫脹 発疹 黄疽	発熱 認知能の障害 頭痛 めまい 失神 言語障害 けいれん発作 視力障害・視野狭窄 目の充血 聴力障害・耳痛 鼻漏・鼻閉 鼻出血 さ声 胸痛 動悸	咳・痰 咽頭痛 誤嚥 誤飲 嚥下困難 吐血・下血 嘔気・嘔吐 胸やけ 腹痛 便通異常 肛門・会陰部痛 熱傷 外傷 褥瘡 背部痛	腰痛 関節痛 歩行障害 四肢のしびれ 肉眼的血尿 排尿障害（尿失禁・排尿困難） 乏尿・尿閉 多尿 不安 気分の障害（うつ） 興奮 女性特有の訴え・症状 妊婦の訴え・症状 成長・発達の障害

<p>Ⅲ. 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント</p> <p>以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、() 内は主たる疾患であるが、例示である。 <u>※印の疾患・病態群は 90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。</u></p>
<p>(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患</p> <p>※[1]貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血） [2]白血病 [3]悪性リンパ腫 [4]出血傾向・紫斑病</p>
<p>(2) 神経系疾患</p> <p>※[1]脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血） ※[2]脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫） ※[3]変性疾患（パーキンソン病） ※[4]脳炎・髄膜炎 ※[5]一次性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）</p>
<p>(3) 皮膚系疾患</p> <p>※[1]湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性皮膚炎） ※[2]蕁麻疹 ※[3]薬疹 ※[4]皮膚感染症（伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟属腫、疥癬）</p>
<p>(4) 運動器（筋骨格）系疾患</p> <p>※[1]骨折（脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、橈骨骨折） ※[2]関節・靭帯の損傷及び障害（変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎） ※[3]骨粗鬆症 ※[4]脊柱障害（腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）</p>
<p>(5) 循環器系疾患</p> <p>※[1]心不全 ※[2]狭心症、心筋梗塞 [3]心筋症 ※[4]不整脈（心房細動、房室ブロック） [5]弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症） ※[6]動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤） ※[7]静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫） ※[8]高血圧症（本態性、二次性）</p>
<p>(6) 呼吸器系疾患</p> <p>※[1]呼吸不全（在宅酸素療法含む） ※[2]呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎） ※[3]閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、塵肺） [4]肺循環障害（肺塞栓・肺梗塞） ※[5]異常呼吸（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群） ※[6]胸膜・縦隔・横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎） [7]肺癌</p>

<p>(7) 消化器系疾患</p> <ul style="list-style-type: none">※[1]食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎、逆流性食道炎）※[2]小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻、過敏性腸症候群、憩室炎、大腸癌）※[3]胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）※[4]肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）※[5]膵臓疾患（急性・慢性膵炎）※[6]横隔膜・腹壁・腹膜疾患（腹膜炎、急性腹症、鼠径ヘルニア）
<p>(8) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）疾患</p> <ul style="list-style-type: none">※[1]腎不全（急性・慢性腎不全、透析）<ul style="list-style-type: none">[2]原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）※[3]全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）※[4]泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症、過活動膀胱）
<p>(9) 妊娠分娩と生殖器疾患</p> <ul style="list-style-type: none">[1]妊娠分娩（妊娠の診断、正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、産褥）※[2]妊婦・授乳婦・褥婦のケア（妊婦・授乳婦への投薬、内科合併症（甲状腺疾患、高血圧、糖尿病）、乳腺炎、産後ケア、母乳育児支援）※[3]女性生殖器及びその関連疾患（月経困難症／月経前症候群／月経周期異常《無月経を含む》／不正性器出血／更年期障害／外陰・膣・骨盤内感染症／萎縮性膣炎／骨盤臓器脱／婦人科腫瘍／乳腺腫瘍）[4]周産期メンタルヘルス※[5]男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害）[6]性の多様性に関する健康問題
<p>(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患</p> <ul style="list-style-type: none">[1]視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）※[2]甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）<ul style="list-style-type: none">[3]副腎不全※[4]糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）※[5]脂質異常症※[6]蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）
<p>(11) 眼・視覚系疾患</p> <ul style="list-style-type: none">[1]屈折異常（近視、遠視、乱視）※[2]角結膜炎（アレルギー性結膜炎）<ul style="list-style-type: none">[3]白内障[4]緑内障[5]糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化
<p>(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患</p> <ul style="list-style-type: none">※[1]中耳炎※[2]急性・慢性副鼻腔炎※[3]アレルギー性鼻炎※[4]咽頭炎（扁桃炎、扁桃周囲膿瘍）<ul style="list-style-type: none">[5]外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物

<p>(13) 精神・神経系疾患</p> <ul style="list-style-type: none">[1] 症状精神病※[2] 認知症（アルツハイマー型、血管型）※[3] 依存症（アルコール依存、ニコチン依存）※[4] うつ病[5] 双極性障害[6] 統合失調症※[7] 不安障害（パニック障害）※[8] 身体症状症（身体表現性障害）、適応障害※[9] 不眠症※[10] 依存症（ニコチン、アルコール、薬物等）※[10] 簡易精神療法
<p>(14) 感染症</p> <ul style="list-style-type: none">※[1] ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘・帯状疱疹、ヘルペス、流行性耳下腺炎、H I V）※[2] 細菌感染症（ブドウ球菌、MR S A、A群レンサ球菌、クラミジア）[3] 結核[4] 真菌感染症[5] 性感染症[6] 寄生虫疾患
<p>(15) 免疫・アレルギー疾患</p> <ul style="list-style-type: none">※[1] 膠原病とその合併症（関節リウマチ、S L E、リウマチ性多発筋痛症、シェーグレン症候群）[2] アレルギー疾患※[3] アナフィラキシー
<p>(16) 物理・化学的因子による疾患</p> <ul style="list-style-type: none">※[1] 中毒（アルコール、薬物）[2] 環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）※[3] 熱傷
<p>(17) 小児疾患</p> <ul style="list-style-type: none">[1] 小児けいれん性疾患※[2] 小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ、R S、ロタ）※[3] 小児細菌感染症※[4] 小児喘息[5] 先天性心疾患[6] 発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、ダウン症、精神遅滞）[7] 小児虐待の評価
<p>(18) 加齢と老化</p> <ul style="list-style-type: none">※[1] 高齢者総合機能評価※[2] 老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）
<p>(19) 悪性腫瘍</p> <ul style="list-style-type: none">※[1] 維持治療期の悪性腫瘍※[2] 緩和ケア
<p>IV. 医療・介護の連携活動</p> <p>以下に示す診療を適切に実施することができる。</p>

新家庭医療専門研修プログラム細則

<ul style="list-style-type: none">(1)介護認定審査に必要な主治医意見書の作成(2)各種の居宅介護サービスおよび施設介護サービスについて、患者・家族に説明し、その適応を判断(3)ケアカンファレンスにおいて、必要な場合には進行役を担い、医師の立場から適切にアドバイスを提供(4)グループホーム、老健施設、特別養護老人ホームなどの施設入居者の日常的な健康管理を実施(5)施設入居者の急性期の対応と入院適応の判断を、医療機関と連携して実施
V. 保健事業・予防医療 以下に示すケアや活動を適切に提供・実践することができる。
<ul style="list-style-type: none">(1)各種ワクチンプラクティス（小児～成人まで幅広いワクチン接種計画と実施）(2)生活習慣指導（食事、運動、禁煙、アルコール等）(3)特定健康診査の事後指導(4)特定保健指導への協力(5)各種がん検診での要精査者に対する説明と指導(6)保育所、幼稚園、小学校、中学校において、健診や教育などの保健活動に協力(7)産業保健活動に協力(8)健康教室（高血圧教室・糖尿病教室など）の企画・運営に協力(9)性に関する健康（性感染症予防、性教育、プレコンセプションケア、避妊カウンセリング、家族計画）
VI. 在宅医療 以下に示すケアを適切に提供・実践することができる。
<ul style="list-style-type: none">(1)在宅導入(2)定期訪問診療(3)臨時往診(4)在宅看取り
VII. 社会的問題 以下に示す問題に適切に対応できる。
問題の発見・認識と対応（貧困、虐待、DV、孤立、引きこもり）